

令和8年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・課題に沿って、思ったことや考えたことを、助詞を正しく使い、文章に書き表す力。 ・目的や意図に応じて内容を明確にし、表現の効果を考えながら書く力。 ・言葉に触れ、活用する力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 64% ・目的に応じて文章と図表などを使って、必要な情報を活用し、表現したい事柄を文章にまとめることに課題がある。 ・文章の構成を考えたり、自分が感じたりしたことを文章に表すことが難しい。 ・既習漢字の定着が低く、語彙の少ない児童が多い。	・資料の効果やグラフのよさを全体で確認し、児童が必要な情報を理解し、まとめる活動を取り入れる。 ・説明文の学習では、文章の構成や表現の工夫について、児童が理解できるよう段階的に、丁寧に指導する。 ・作文を書く活動を増やし、児童の書くことへの抵抗を少なくしていくよう支援する。 ・朝読書の時間や読み聞かせの活動を充実させる。 ・言葉遊びを楽しんだり、漢字や文字を意識的に使ったりする活動を日常的に取り入れ、繰り返し活用できるようにする。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・AI が導いた情報だけを鵜呑みにせず、様々な資料から情報を適切に調べまとめる力。 ・社会的事象について、多角的な思考や理解を通して、主体的に問題を解決しようとする力。	・学習問題に対する予想を立てることに慣れておらず、答えをAI で求めようとする。 ・表やグラフの内容を読み取ることはできるが、資料を選択したり、学習問題と結びつけて考えたりすることが難しい。 ・学習内容と自分の生活との関連性を見付ける力に個人差があり、自分事として考えることが難しい。	・既習内容と結びつけたり、教科書や資料集を活用したりして、学習課題に対する自分の考えをもつことができるようにする。 ・資料から分かることや、そこから考えられることを友達と話し合い、多角的に物事を考える力を養う。 ・実際に見学したり、調査したりする活動を取り入れ、人々の工夫や努力が自分たちの生活を支えていることを実感できるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算数	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、日常の事象を数理的に表現し、処理する力。 ・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力。 ・考えたことを分かりやすく表したり、発表したりする力。 ・文章や図、グラフ、表を適切に読み取って立式するなど、数理的に処理し、問いに正対した解答を導き出す力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 66.0% ・単位量当たりの大きさや割合の問題において、基準量や比較量を正しく捉えることができない児童が多い。 ・高学年になるにつれて、「知識・技能」においても、「思考・判断・表現」においても、個人差が大きくなり、学力の2極化が見られる。 ・文章題において、適切に立式できない児童が見られる。	・各学年で身に付けるべき計算技能の定着が図れるように、繰り返し練習に取り組む機会や、それらを生活や学習に活用する機会を多くもつようにする。 ・文章、図、表、グラフから読み取れることと式とを相互に関連付けた指導を充実し、問題解決が円滑に図れるようにする。 ・友達と考えを交流して学び合ったり、既習を生かして問題解決できたことを実感したりする活動を充実させ、学習に対する意欲の向上を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
理科	・事象から問題を見出したり、解決したりする力。 ・自然事象についての考えを適切な言葉を選んで伝える力。 ・実験技能を身に付け、自ら進んで調べようとする力。 ・学びを生かして豊かな暮らしや生き方を実践する力。	・自然事象から問題を見出す力が十分でない児童が見られる。 ・生活経験を基に実験・観察の予想を立てにくい児童がいる。 ・学習したきまりやしくみを事象に当てはめて考える力が十分でない児童が見られる。 ・生物や環境とのかかわりについて学んだことを具体的な行動に移すことが課題である。	・根拠を求めて既習や生活経験を見直し、考えを広げる機会を増やす。 ・結果を基に結論を整理して表現することにより、用語も含めた知識理解の定着につなげる。 ・可能な限り一人一実験を実施し、器具の名称を押さえたうえで、同じ実験を繰り返し行い正しい機器の使い方への習熟を図る。 ・学習内容を生活科及び学年間、中学校との内容の系統性及び日常生活での活用や科学技術との関連に広げる指導を行う。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	・自分で興味をもち、挑戦する力。 ・気付いたことを表現し、伝える力。 ・気付いたことを生活の中で生かす力。	・学習に楽しんで取り組もうとする力はあるが、表現する力に個人差がある。 ・気付きや発見を自分の言語や文章で表現することに課題がある児童がいる。 ・生きものを育てることなど、様子に気付き生活に生かそうとする児童がいる一方で、きまりの意味や必要性を考える力が弱い児童もいる。	・児童の経験を想起させたり生かしたりできるような言葉掛けを意識するとともに、前年度の反省を生かした指導計画を立てる。 ・気付いたことを表現する方法を指導するとともに、表現方法には様々あることを伝える。また、友達に伝え合う場面を増やすことで伝える良さに気付かせる。 ・気付いたことを日々の生活の中で生かしていけるように、家庭と連携・協力を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・表したい音楽表現をするために必要な技能。 ・音楽表現を工夫したり、味わって聴いたりする力。 ・音楽を愛好する心情、感性。	・鍵盤ハーモニカ・リコーダー等技術の獲得に熱心に取り組む児童もいるが、個人差が大きい。 ・鑑賞に取り組む態度は、少しずつ向上しているが、依然課題は残る。 ・グループ活動等、協働で取り組む活動の経験が少ないこともあり、設定した時間よりも多くかかってしまう傾向にある。	・曲想や音楽構造の働きを理解し、表現に生かすことができるように、継続的・計画的に指導していく。 ・どのような表現するのか思いや意図をもたせ、曲の特徴にふさわしい表現を試したり考えたりする活動を取り入れる。 ・協働して音楽に親しむ場面の設定や、様々な音楽に親しむ場面を設定する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・自分の思いを表現するために適切な材料や道具を適切に扱う力。 ・学んだことを生活の中で活用したり、応用したりする力。 ・身近にある作品などの形態から、表現の意図や特徴、よさや美しさなどを感じ取る力。	・道具の扱いに課題がある。また、扱い慣れていない道具は、時間の経過で使い方を忘れてしまうことがある。 ・課題に対して、発想が広がらなかったり、自分のやりたいことに技能面が追い付かなかったりすることで、意欲をなくしてしまう。	・活動に合った材料や道具を適宜用意し、扱い方などについて視覚的に手本や見本を示しながら指導する。 ・見通しをもって主体的に活動できる姿勢を育てる。また、幅広い造形活動の機会を設定する。 ・様々な作品に触れる機会を設定したり、自分の作品や他の人の作品を鑑賞して交流したりする時間を取り入れる。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解し、適切にできる力。 ・日常生活の中から課題を見付け、様々な解決方法を考え、進んで実践する力。	・基本的な裁縫（手縫いやミシンの操作）についての技能が十分に習得できていない。 ・授業で学習した内容を家庭で実践する児童が少ない。	・実習では、一人一人が実技をしっかり行えるように、道具の用意などを行う。 ・授業で計画を立てたり、実践したりしたことを家庭でも実践する期間を設け、工夫して生活に生かせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・自らの運動課題を見付け、自己調整をして、解決する力。 ・友達と協力し、よさを認め合い、考えを伝え合う力。	・体力テストの結果より、男女ともにソフトボール投げが全国平均よりも下回っている。特に女子の記録が大きく下回っている。 ・体力テストの結果より、全学年（特に中、高学年）のシャトルランの記録が全国平均よりも下回っている。	・運動との出会わせ方を工夫し、誰もが十分に運動の特性を味わえる学習活動を計画する。 ・場や環境を整え、学習カードやICT等を活用することで自己の課題を見付け解決する思考を促す。学習の経過に伴う、自己の学び方の変化に気付けるようにする。 ・領域に応じたチームやグループを設定し、学び合いながら学習が進められるようにする。動きのポイントや見る視点を与え、友達の活動を認め合いながら関わり合えるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・学んだ英語を使って相手とコミュニケーションを楽しむ力。 ・相手意識、他者意識をもって話したり聞いたりすることができる力。 ・粘り強く英語を理解しようとしたり、伝えようとしたりする力。 ・自分ができること、できないことを自覚して、さらによりよい学びにするために学習を調整する力。	・相手の英語を注意深く聞いて判断する力に課題がある。例えば、I like music. I can't play the guitar but I can play the triangle.を聞いて、「ギターもトライアングルもできる」と判断してしまう。 ・英語を書く力に差が大きい。アルファベットの小文字の認識が弱い児童が多い。 ・インプットするために発話をして学習するという学び方を選ぶことが少ない。いざ発表や友達とのやり取りをして「話せない」と気付くことが多い。	・毎授業に1回以上、これまでに学んだ英語を使って相手とやり取りをする時間を設ける。 ・毎授業の始めにアルファベットを聞いて書く活動を入れ、音と文字を結び付けられるようにする。 ・単元構成を工夫し、単元の中盤において、自分で学習方法を選んで自信をもって英語を発話できるようにする活動を入れる。その際、口に出して学ぶ方法を選ぶことの大切さを伝える。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・善悪を判断する力。 ・相手を尊重し、礼儀を示そうとする態度。 ・友達と互いに理解し合い、思いやる心。 ・人間としてもつべき規範意識を身に付け、実践しようとする意欲。 ・自他の生命を尊重し、命ある物を慈しみ、大切にしようとする心情。	・道徳的価値に対する理解は深まっているが、振り返りの際、道徳的価値に対して自分事して捉え、生活と結び付けて考えることが難しい児童がいる。 ・「主として自然や崇高な物との関わりに関すること」について考える経験が乏しく、感動・畏敬の念を感じたり表現したりすることが難しい児童がいる。	・道徳の授業を要として、全教育活動を通して意図的・計画的に指導に当たる。 ・表現活動や話し合い活動を取り入れ、多様な考え方に接し、自分の考えを広げたり深めたりする場面を作る。 ・すべての内容項目について、まんべんなく道徳的価値の理解を深め、自分事として考えられる発問を行い、多面的・多角的な考え方を育む。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・異学年交流を通して多様な他者と協働し、集団活動に自発的に参加しようとする力。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、合意形成を図ろうとする力。	・合意形成に向け、多様な意見を比較したりつなげたりしながらまとめることが難しい。 ・自分の意見を論理的に主張できない児童や、自分と異なる意見を受け入れられない児童がいる。	・児童主体で話し合いを行う機会を確保することで、問題意識を表出し、合意形成に向けた話し合いを行う力を付ける。 ・合意形成を大切に、他者の意見を尊重し認め合うことを通して皆が主体的に話し合いに参加できる雰囲気を作る。

令和8年度 授業改善推進プラン

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・日々の生活に目を向け、興味・関心あることを増やし、問いをもとうとする力。 ・課題解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む力。	・課題に対して、継続的にかかわる力の向上を図る必要がある。 ・課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という探究的な学習が系統性をもって確率されていない。	・自分の興味・関心のあることを見付けられるように、様々な体験活動を各学年に取り入れる。 ・グループ活動、個人活動をバランスよく取り入れ、協働的に学習を深める機会をもつ。 ・各教科で身に付けた力を、横断的・総合的に生かせるようカリキュラムマネジメントを行う。